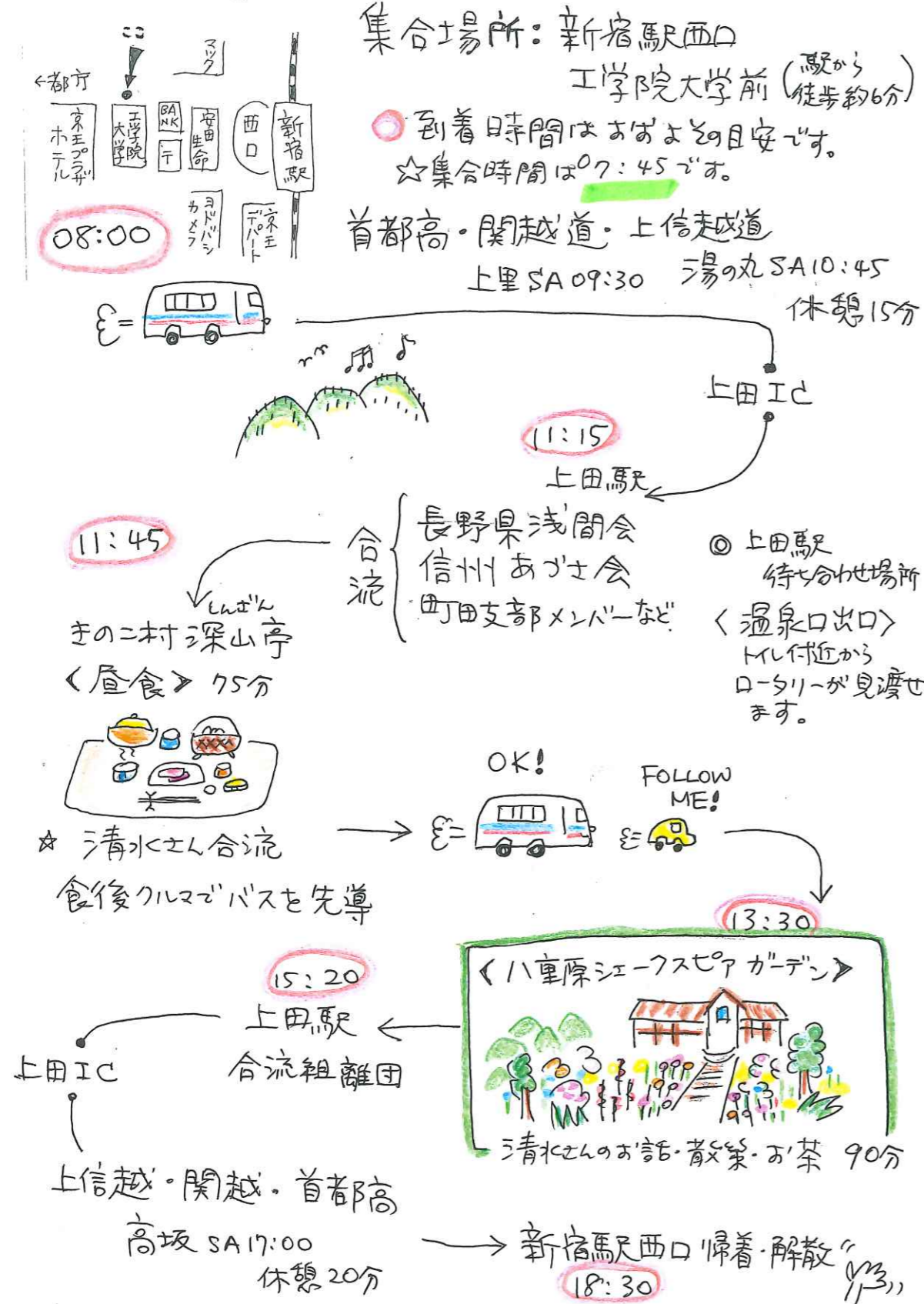


〈出発〉 ★スケジュール★



臨地講座

9月6日(水) 日帰りバスの旅

八重原シェークスピアガーデンを訪ねる
 ~長野県2支部との交流も含めて



同窓会では昨年4月シェークスピア文学の翻訳者松岡和子さんをお招きし、その作品の魅力をお話いただきました。それに引きつづき、今年はシェークスピア作品に登場する花や植物をガーデンに作り上げた同窓生、清水(花岡)計枝さんの「八重原シェークスピアガーデン」を訪問し、お話を伺います。

シェークスピアの作品には数多くの植物が登場し、物語のキーポイントを担っていることも少なくありません。

王妃: ...そこでオフィーリアは風変わりな花冠を作ったのです。センノウ、イラクサ、デージー、...紫色のランからなる花冠を持って。 『ハムレット』

王妃はオフィーリアが「風変わりな花冠」をヤナギの枝に架けようとして川に落ちたと述べるのです。(清水さん著『八重原シェークスピアガーデンの植物』(2019年、クラフト舎刊)より。) 登場する植物は花ことばや比喩、または薬草としての役割など、作品の名脇役ともいえるほどです。

英国旅行でシェークスピアガーデンに魅せられた清水さんは、長野県に自らガーデンを再現してしまいました。東御市芸術むら公園の一隅を占めるこの素敵なガーデンは、2013年にオープンしました。地図に載っていない、まさに秘密の花園です。

今回のツアーでは長野県の2支部のメンバーも合流し、東京からのメンバーとお昼をともにし、清水さんのお話を伺いながらお茶をいただき、シェークスピアゆかりの植物に囲まれてひとときを過ごします。

清水さんは同窓生の訪問を心待ちにして、当日は参加者全員にサプライズプレゼントを用意してくださっているそうですので、それもお楽しみに。

- 八重原シェークスピアガーデン所在地
長野県東御市八重原白水平 3533-1216
(東御市芸術むら公園・新池沿い)
- 一般社団法人 東京女子大学同窓会
〒167-0041 東京都杉並区善福寺 2-23-11
Tel. 03-3395-4448